

埼玉アートシアター通信

SAITAMA ARTS THEATER PRESS

2014.5-6

NO. 51



Compagnie DCA
Philippe Decouflé

フィリップ・ドゥクフレ カンパニー DCA
『PANORAMA—パノラマ』

ニナガワ×シェイクスピア レジェンド 第1弾 『ロミオとジュリエット』 蜷川幸雄 インタビュー

彩の国シェイクスピア・シリーズ 第29弾 『ジュリアス・シーザー』 / 白石加代子 「百物語」

さいたまゴールド・シアター×瀬山亜津咲 (ピナ・パウシュ ヴッパタール舞踊団ダンサー)

『ピーター・ブルックのザ・タイトロープ (原題)』 / 萩原麻未



SAITAMA
ARTS
THEATER

2014.5-6
NO. 51

- 03 **PLAY** 彩の国シェイクスピア・シリーズ番外編
ニナガワ×シェイクスピアレジェンド第1弾
『ロミオとジュリエット』 蜷川幸雄 インタビュー
- 07 **PLAY** 彩の国シェイクスピア・シリーズ第29弾
『ジュリアス・シーザー』
- 08 **PLAY** 白石加代子「百物語」シリーズ 第三十二夜
第99話 ファイナル公演
- 09 **DANCE** さいたまゴールド・シアター×
瀬山亜津咲 (ピナ・バウシュ ヴァッパタール舞踊団ダンサー) 新作
- 10 **DANCE** フィリップ・ドゥクフレ カンパニーDCA
『PANORAMA —パノラマ』
- 12 **CINEMA** ドキュメンタリー映画『ピーター・ブルックのザ・タイトロープ (原題)』
マルチェロ・マーニ インタビュー
- 14 **MUSIC** ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.25
萩原麻未 インタビュー
- 16 **PLAY** 松竹大歌舞伎
中村歌昇改め三代目中村又五郎襲名披露 中村種太郎改め中村歌昇襲名披露
- 17 **MUSIC** 埼玉会館&熊谷会館ファミリー・クラシック
『夏休みオーケストラ!』
- 18 **COLUMN** アーティストの原点14 白石加代子
- 19 **REVIEW** 2014.3-4 彩の国のアーツ
- 20 イベント・カレンダー／チケットインフォメーション
彩の国シネマスタジオ
- 23 THEATER BRIDGE
- 24 **COLUMN** 彩の国 LOUNGE vol.11



COVER
フィリップ・ドゥクフレ カンパニーDCA 『PANORAMA —パノラマ』
Photo © Christian Berthelot

SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2014.5-6 No.51
編集◎市川安紀 [アルカディア社]、結城美穂子 デザイン◎中野一弘、鶴田大志、河西謙一 [bueno]

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
Published on 15.May 2014 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2014年4月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

PLAY



彩の国
シェイクスピア・シリーズ
番外編

NINAGAWA
ニナガワ×シェイクスピアレジェンド第1弾
SHAKESPEARE
LEGEND I

ROMEO AND JULIET

『ロミオとジュリエット』

蜷川幸雄 インタビュー

この夏、彩の国シェイクスピア・シリーズに番外編が登場する。走り続ける演出家・蜷川幸雄は“レジェンド=伝説”などと神棚に祀られることをよしとしないが、『ロミオとジュリエット』は蜷川が初めてシェイクスピアを演出した、まさに伝説的作品だ。今回は俳優のみによる「オールメール」で4度目の『ロミオとジュリエット』に挑み、来年1月には“レジェンド”第2弾として8度目の『ハムレット』を手がける。

取材・文◎市川安紀 Photo◎細野晋司 (蜷川幸雄写真)

NINAGAWA
SHAKESPEARE
LEGEND IROMEO
AND
JULIET

『ロミオとジュリエット』

蜷川幸雄
インタビュー

1974年 東宝『ロミオとジュリエット』市川染五郎（現・松本幸四郎）、中野良子（日生劇場／写真提供＝東宝演劇部）

初シェイクスピアの「闘争」

——1974年の『ロミオとジュリエット』が蜷川さん初のシェイクスピア演出で、大劇場デビュー作としても「伝説」として語られています。当時のシェイクスピア上演に対する異議申し立ての思いもありましたか。

それはありました。イギリスから来日する公演も含めて、シェイクスピアはなぜこんなにつまらないのかと。シェイクスピアが持つ古典的権威を引きずり降ろさなければと思っています。本来のシェイクスピアは猥雑で、最下層の庶民から最上級の王侯貴族まで社会の構造そのものが戯曲に反映されている。世界の全てがわかる面白さに満ちているのに、はじめから崇め奉っているのはおかしいだろうと。日本の演劇的階級主義を壊してやりたいと思いましたね。——当時の写真を見ると、城壁のようにそびえ立つ舞台装置が広場と階段の周りをぐるりと囲んでいて圧倒されます。

ジュリエットの部屋はてっぺんにあって、ロミオに会いたいとなると情熱的に、積極的に飛び降りて会いに行く。ロミオもジュリエットに会うために上へ上へとよじ登っていく。とにかく俳優を走らせました。喧嘩のシーンもものすごく派手にしてね。——実際に演出してみてシェイクスピアが自身にフィットする手応えは感じましたか。

その時は全然考えなかったな。それより無名のアングラ演出家がいきなり大劇場で演出するわけで、自分のやりたいことが商業演劇で実現できるかという「闘争」でしたから。台詞を覚えてこない俳優の台詞は全部カットし、エルトン・ジョンのロックを大音量でかける（笑）。参考資料で見せたのはフェリーニの映画。豊かな身体性を取り戻すために太っている人、小さい人、身体の不自由な人も出る。情性で演じる商業演劇の俳優は怒鳴りまくりました。「闘争」ですから、そりゃモノも投げますよ（笑）。ただ、松本幸四郎さん（当時は市川染五郎）は始めからすごかった。ロミオがベンヴェオーリオと登場するシーンでは、どこかで摘んできた草花を手に持って客席を歩いてくる。恋に悩む青年の憂鬱がよく捉えられていて、稽古で拍手が起きました。商業演劇全体が悪いのではなく、優秀なプロはすごい、ということは知りましたね。

フィレンツェの広場は蜷川に多くの刺激を与えた（写真は現在の様子）



——その後再演を含めると3度『ロミオ〜』を演出されていますが、大事にしている作品の核とは？

ジュリエットは14歳に満たない年齢ですが、人を好きになったら仮死状態になっても愛を成就しようとする。『ロミオとジュリエット』には、この年齢ならではの危うさ、青春特有の狂気のような熱い思いがよく描かれているんです。普通の人間にはできないことを、若いロミオとジュリエットが実現した。だから作品が伝説化されて残っていると思う。民衆が作った一種の神話であり、永遠の青春の物語として生き続けてきたんだと思います。

原点はフィレンツェの広場

——そういえば初演の時は、物語の舞台であるヴェローナではなくフィレンツェに行つてヒントを得たと聞きましたが。

演出の依頼を「イタリアを知らないから出れない」と断ろうとしたら、東宝から「どうぞ行ってきてください」と言われたんですよ。初めての海外で、しかも一人旅。右も左もわからずローマに数日いて、ふとフィレンツェに行こうと思いついたんです。ウフィ

民衆が作った永遠の
青春物語は「神話」になった

ツィ美術館のように美しい美術館もあるし、ミケランジェロの彫刻や広場を眺めて毎日遊んでました。フィレンツェがあまりにも面白くて、ヴェローナには結局行かなかった（笑）。

——フィレンツェで広場を眺めたことが演出にもつながった、と？

そう、広場の角々から道が伸びていて人が往来し、窓のある建物の壁に囲まれている。広場を眺めていると人々の生活感が手に取るようにわかりました。その影響はいまだにあって、舞台の奥から手前へと縦方向に人を出すとか、セットを囲むように建てることが多いのも、基本形はフィレンツェじゃないかと思います。

1998年 彩の国シェイクスピア・シリーズ第1弾『ロミオとジュリエット』大沢たかお、佐藤藍子（彩の国さいたま芸術劇場）Photo ©高嶋ちぐさ



2004年 TBS／ホリプロ『ロミオとジュリエット』藤原竜也、鈴木杏（日生劇場）Photo ©江川誠志

——行ってよかったですね。

結果としてはね。あの頃は商業演劇のいい時代で、未来への投資を惜しまなかった。興行会社の重役にも若い演出家のパトロンの教養があった最後の時代だと思います。

若きシェイクスピア俳優を育てる

——さて、今回は4度目の『ロミオとジュリ

エット』ということですが、その前に“レジェンド”とはまたゴージャスな響きです。

言っときますけど、自分でつけたんじゃないからね！（笑）

——オールメールで『ロミオ〜』とは今までにないアプローチかと。

今回はセットも特に飾らない小さな空間で、演技だけで『ロミオ〜』を見せられないかと思ったん

ですね。それともうひとつ、シェイクスピアが出来る若い俳優たちを育てないと、という思いもあります。ナチュラルな演技をするのは彼らにはそう難しいことじゃないだろうけど、シェイクスピアの文体というのはある程度訓練しないと慣れないんです。二枚目俳優を集めて、若い女性たちにどんどん来てもらおうと（笑）。

——ロミオの菅田将暉さんは蜷川さんの舞

台に初出演、ジュリエットの月川悠貴さんは多くのオールメール作品でシリーズを象徴する娘役を演じてきました。

菅田くんは僕の稽古場にもよく遊びに来てくれていて、ナイーブない青年だなと思っていました。とても熱心で、センスもいと他の俳優からも聞いています。月川くんはオールメールの初期から中心を担っていました。彼のユニセックスな、つぼみの固さのようなキャラクターのおかげで、これまでオールメールが崩れなかった気がするんですね。クールなイメージの彼が、ジュリエットの情熱を浴びて新しい境地を発見してくれればと。キラキラした若者たちとの出会いで、鮮烈な『ロミオとジュリエット』にできたらと思っています。

——続く“レジェンド”シリーズ第2弾はなんと『ハムレット』だそうですね。

詳しくはまだ話せませんが、自分でももう何度目かわかりませんよ（笑）。でも汲めども尽きない魅力を持つ作品ですから、また新たなテーマを見つけられると思います。楽しみにしててください。

NINAGAWA × SHAKESPEARE LEGEND I

ROMEO
AND
JULIET

『ロミオとジュリエット』

オールメールでおくる永遠の恋物語

シェイクスピア全作の上演を目指す彩の国シェイクスピア・シリーズの中で、シェイクスピアの時代にならって俳優のみですべての役を演じる「オールメール・シリーズ」。2004年『お気に召すまま』以来7回を数える人気企画だ。その番外編として登場する『ロミオとジュリエット』を、蜷川幸雄はこれまで再演を含め4度演出を手がけ、彩の国シェイクスピア・シリーズの第1弾も本作で飾っている。

対立するモンタギュー家のロミオとキャピレット家のジュリエットが一瞬で駆け抜けたあまりにも純粋な真実の愛。大人たちの事情に翻弄され、恋の炎ははかなく消えた。今回ロミオ役を演じるのは、NHK朝のテレビ小説『ごちそうさん』での主人公の息子役も記憶に新しい菅田将暉。『ロミオ〜』にはマキューシオ役で出演経験もあり、清新なロミオ役に期待が高まる。ジュリエット役には「オールメール」で数々の娘役を演じてきた月川悠

貴。清潔感と明晰さを併せ持つ女性像で印象を残してきた彼が情熱的な少女ジュリエットをどう表現するのか。ロミオの友人マキューシオには『身毒丸』の矢野聖人、ベンヴォーリオにはドラマなどで活躍する若葉竜也、ジュリエットの従兄

ティボルトには劇団プレステージで人気の平埜生成、ジュリエットの婚約者パリスにはドラマ、CMなどで頭角を現す菊田大輔と、見逃せない若手俳優たちが顔を揃えた。蜷川演出にこたえる彼らの奮闘にぜひご注目。

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
NINAGAWA×SHAKESPEARE LEGEND I
『ロミオとジュリエット』

日 時：8月7日(木)～8月24日(日)

8月	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:00			★	★	休	★	★	★	★	★	★	休	★	★	★	★	★	★
18:30	★	★			休					★		休						★

会 場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
演 出：蜷川幸雄
作 者：W.シェイクスピア
翻 訳：松岡和子
出 演：菅田将暉、月川悠貴、矢野聖人、若葉竜也、平埜生成、菊田大輔、原 康義、青山達三、塾 一久、廣田高志、間宮啓行、大鶴佐助、岡田 正、清家栄一、山下禎啓、谷中栄介、鈴木彰紀*、下原健嗣、ハイクラソーナ、後田真歌、小松準弥、佐藤 匠、原 零史、福山翔大 ほか ※さいたまネクストシアター

チケット(税込)

一般：6,500円 メンバーズ：6,000円
U-25 (25歳以下対象/枚数限定/要身分証明書)：3,000円
発 売 日：一般6月7日(土) メンバーズ5月25日(日)

蜷川幸雄が豪華俳優陣と共に放つ、
シェイクスピアの代表作!

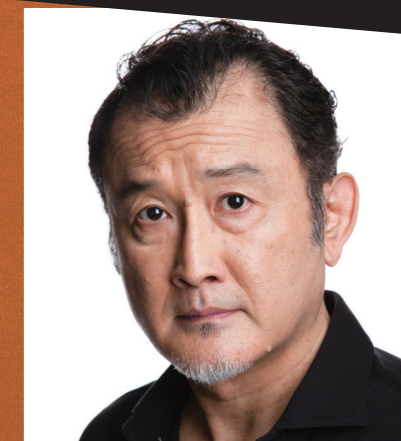
彩の国シェイクスピア・シリーズ第29弾
『ジュリアス・シーザー』上演決定!



阿部 寛



藤原竜也



吉田鋼太郎

「ブルータス、お前もか?」

約1年ぶりとなる彩の国シェイクスピア・シリーズの第29弾として、『ジュリアス・シーザー』がいよいよ登場する。ローマの英雄ジュリアス・シーザーを暗殺したブルータスの苦悩と運命を、名台詞・名演説とともに辿るシェイクスピア史劇の傑作だ。断末魔のシーザーが放つ「ブルータス、お前もか?」という言葉はあまりにも有名。ポンペイを破った英雄シーザーを、高潔な理想主義者ブルータスはなぜ暗殺しなければならなかったのか。その理由を説くブルータスの演説はローマ市民を感動させるが、シーザーの腹心アントニーは巧みな弁舌で群衆を煽動し、人心はいともたやすく反ブルータスへと傾く。生真面目な男の葛藤と群衆心理の危うさを見事に描き切り、古びることがない。またブルータスとアントニーの演

説合戦は本編最大の聴きどころだ。

剛柔自在に脂ののった活躍を続ける阿部寛が苦悩の正義漢ブルータスに扮し、『シンペリン』に続いて同シリーズ2作目の主演を果たす。また意外にもシリーズ初

登場となるのが蜷川演出の申し子、藤原竜也。そして日本を代表するシェイクスピア俳優であるシリーズの顔、吉田鋼太郎という豪華な顔合わせで、身震いするような壮絶な舞台が誕生するに違いない。

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
彩の国シェイクスピア・シリーズ第29弾
『ジュリアス・シーザー』

日 時：10月7日(火)～10月25日(土)

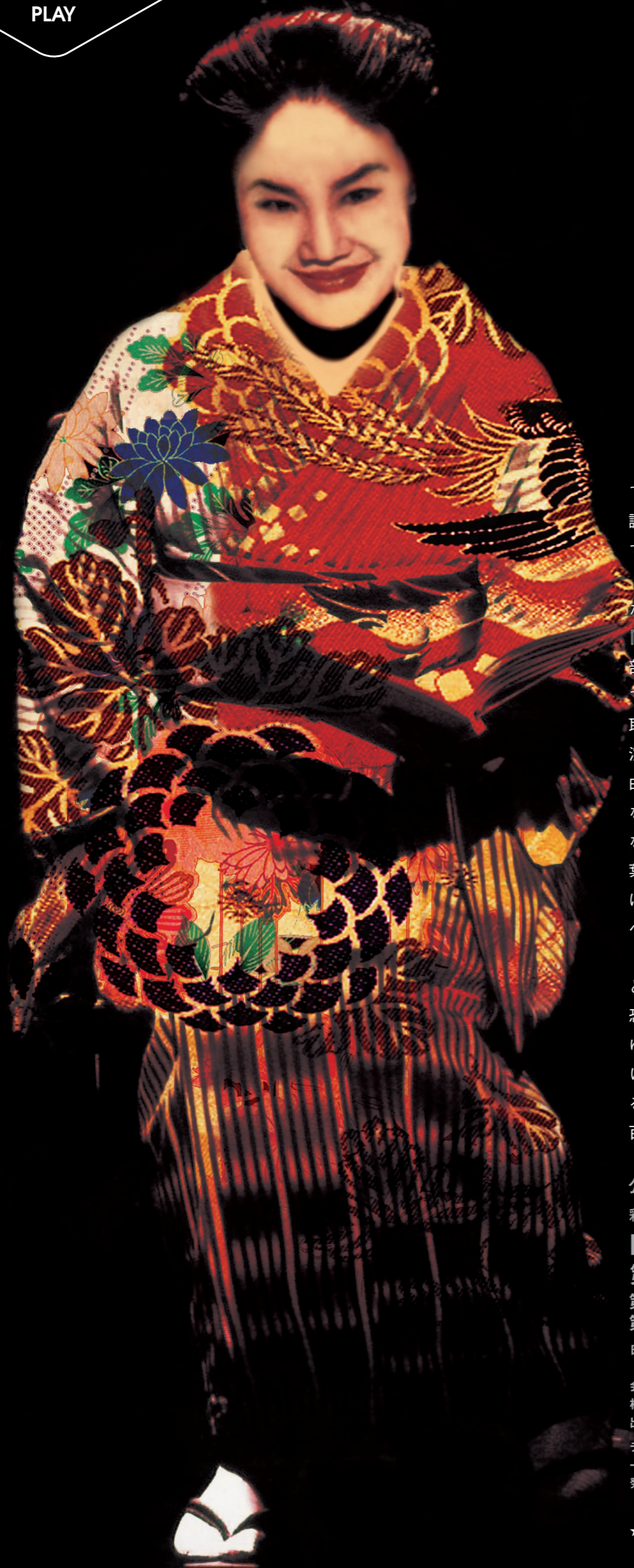
10月	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
	火	水	木	金	土	日	月祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
13:30		★	休	★	★	★	★	★	★	休	★	★	★	★	○	★	休	★	★
18:30	★	★	休		★			★				★			○			休	★

会 場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演 出：蜷川幸雄
作 者：W.シェイクスピア
翻 訳：松岡和子
出 演：阿部 寛、藤原竜也、吉田鋼太郎、中川安奈、たかお鷹、原 康義、大石継太、廣田高志、横田栄司、間宮啓行、星 智也、二反田雅澄 ほか

チケット(税込)

一般：S席9,500円/A席7,500円/B席5,500円
メンバーズ：S席8,600円/A席6,800円/B席5,000円
U-25 (25歳以下対象/B席対象/劇場のみ取扱/要身分証明書)：2,000円
発 売 日：一般7月19日(土) メンバーズ7月12日(土)

※メンバーズには別途ご案内するプレオーダー(抽選)があります(6月下旬予定)。



白石加代子 「百物語」 ファイナル公演

白石加代子がライフワークとして続けてきた「百物語」シリーズ。怖い話、不思議な話をたったひとりで演じるスタイルで、「朗読」という概念をはるかに超えたドラマチックな舞台が観客を魅了してきた。怖さだけでなく笑いもふんだんに、「平家物語」のような古典から夢枕獃、宮部みゆき、筒井康隆といった現代作家までバラエティに富んだ作家たちの作品を取り上げてきたが、ついにファイナル公演を迎える。語り納めは、初登場・三島由紀夫の『橋づくし』と、『高野聖』以来となる泉鏡花の『天守物語』。いずれも華麗なレトリックと美意識に満ちた作家の「言葉」たちが、白石加代子の声、表情、動きによって、めくるめくように濃密な世界へと昇華されることだろう。

古来、「百物語」とは一話語り終えるごとに口ウソクを消し、百本目が消えると恐ろしい魔物が現れると信じられてきた。ゆえに、「九十九話」が打ち止めというわけで、ファイナル・ツアーのラストを飾る埼玉公演をゆめゆめ見逃すべからず。百話目はないのだから。

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
白石加代子「百物語」シリーズ
第三十二夜 第99話ファイナル公演
第98話 三島由紀夫『橋づくし』
第99話 泉鏡花『天守物語』

日 時：9月30日(火) 開演19:00
10月1日(水) 開演15:00
会 場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
構成・演出：鴨下信一
出 演：白石加代子
チケット(税込)
一般：4,500円 メンバーズ：4,200円
発 売 日：一般6月21日(土) メンバーズ6月14日(土)

★P.18「アーティストの原点」に白石加代子が登場!

さいたまゴールド・シアター ×
瀬山亜津咲(ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団ダンサー) 新作

同時代を生きる人々の甘く 苦い経験が吐息となり…

文◎石井達朗(舞踊評論家)

瀬山亜津咲(左)



ピナ・バウシュのヴッパタール舞踊団は、全員でラインダンスを踊っていてもダンサーそれぞれの個性が際立っている。群舞全体の光景よりも、一人ひとりのダンサーはどんな人なんだろうかと想像させるのだ。ピナほどのスケールをもって今を生きる人々の多様な様相を、万華鏡のように開示する振付家はいなかった。

多国籍・多個性のピナの舞踊団のなかで、瀬山亜津咲はなくてはならぬダンサーだ。彼女が長年この舞踊団で培った経験は何物にも代えがたい賜物である。その経験を活かす絶好のチャンスが巡ってきた。昨年夏の「さいたまゴールド・シアター×瀬山亜津咲ワーク・イン・プログレス公開」と題された公演である。

高齢者による演劇集団さいたまゴールド・シアターは、力ある劇作家の戯曲と蜷川幸雄演出の相乗効果で眼を見張る成果を挙げている(個人的には『アンドウ家

の一夜』の絶妙な舞台が忘れられない)。「高齢者」と一括りに言うが、それぞれの歩んできた年月が長いからこそ、体のなかに堆積した経験は唯一無二のもの。ひっそりとしまっておきたいものもあるだろうし、みんなで分かち合いたいものもあるだろう。いずれにしろ、この豊かさを舞台で活かさない手はない。

蜷川により鍛えられたゴールド・シアターの面々にとって、それまでやっていた演劇の稽古とは勝手の違うものであったはず。与えられた台詞をしゃべり演技するのではなく、自分自身を人前に出さなければならないし、踊りも踊るのだ。ワーク・イン・プログレスの断片断片に観客は大笑いしたり、涙腺を刺激されたり、意味不明で呆気にとられたり…。素直な直球が角度を変えて、観客席に飛んでくる。ピナ・バウシュは稽古の過程でたくさんの質問をダンサーたちに投げか

け、ダンサーがさらけ出す私的な領域が取捨選択・組織化され、壮大なタンツテアターとなることが知られている。その方法論が、齢を重ねた人たちの創造性をこんなに刺激している。

瀬山とゴールド・シアターとの間の共同作業には、楽しさも困難もあったと想像できる。確かに劇的なスペクタクルや、先鋭的なコンテンポラリーダンスとは程遠い。しかし、そんな試行錯誤を超えて立ちのぼってくるものがある。それはたとえごくちかなくても、ふつうの演劇やダンス公演には見られないものだ。同時代を生きてきた人々の、時に甘く時に苦い経験—それが吐息となり観客席に流れているからだろうか。今年は、これが本公演として打たれる。ふだん演劇を見ている人もダンスを見ている人も、いつもの舞台体験とはまったく別の空気が会場を満たしているのを感じるはずである。



【ザ・ファクトリー3】ワーク・イン・プログレス公開より(2013年)
Photo © Matron

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
さいたまゴールド・シアター ×
瀬山亜津咲 新作

日 時：8月28日(木) 開演19:00、29日(金) 開演14:00、
30日(土) 開演14:00、31日(日) 開演14:00

会 場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席への案内が出来ない場合があります。

演出・振付：瀬山亜津咲(ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団ダンサー)

出 演：さいたまゴールド・シアター

チケット(税込)

一般：3,000円 メンバーズ：2,700円

U-25(25歳以下対象/枚数限定/要身分証明書)：1,500円

発 売 日：一般6月8日(日) メンバーズ6月1日(日)





Photo © Laurent Philippe



Photo © Christian Berthelot



Photo © Laurent Philippe



Photo © Christian Berthelot

文◎岡見さえ（舞踊評論家）

身体という私たちにとって最もリアルな存在を使って現実のどこにもない夢の場所を創り上げてしまう振付家が、フィリップ・ドゥクフレだ。1983年バニョレ国際振付コンクールで賞を受けて以来、ダンスにコミックやグラフィックのポップな視覚性やサーカスの身体の超絶技巧を導入し、レトロな表象と最新の映像技術を混在させた独自のスタイルを築き上げたドゥクフレは、CMやミュージカル、ショーの振付、巨大セレモニーの監修などにも才能を発揮し、ダンスの地平を一気に広げた。振付家(chorégraphe)という語がフランスで一般的になったのも、1992年に弱冠31歳のドゥクフレが約1500人のパフォーマーを動員して創り上げたアルペールビル冬季オリンピックからだという。

そのドゥクフレの最新作『パノラマ』が、さいたまに登場する。初演時(2012年)に『パノラマ』制作のきっかけを問われたドゥクフレは次のように答えている。自分のスペクタクルは異なる複数のパーツが全体を創り上げていて、必ずしも一貫性はなくとも、スペクタクルの全体がある時代、ある人生の経験、ある人々と対応している点で音楽のアルバムに似ている。だから自分も50歳を過ぎ、第一線を走り続けたミュー

ダンスが奏でる協奏曲！ フィリップ・ ドゥクフレの 「ベスト盤」！

アクロバティックでファンタジック、軽やかかつ大胆。「絶対的に楽しい」ドゥクフレの奇想天外な舞台は、老若男女の心をごっすり掴んで離さない。そんな彼の代表作を一望できる絶好の作品『パノラマ』の上演が迫る。

ジャンがするように「ベスト盤」を作ろう
と思いついたのだと。

ダンス史に残る名場面がずらり

『パノラマ』では、初演以来一度も再演されていないバニョレ国際振付コンクールの受賞作『バグ・カフェ』(83)、映像作品の『ジャンプ』(85)や、『トリトン』(90)、94年の初来日日上演した『ブティット・ピエス・モンテ』(93)、『デコデックス』

(95)、『シャザム!』(98)、『ソンプレロ』(06)等、ダンス史に残るドゥクフレ作品の抜粋を見ることができる。コンテンポラリーダンス・ファンにとって、お気に入りのダンスと再会する、あるいは一度ナマで観たいと願っていたダンスを目撃する夢の機会であることは間違いない。けれども『パノラマ』はノスタルジーに浸るための作品ではない。音楽のベスト盤なら過去音源をそのまま使用できるがダンスにそれは不可能であり、過去の作品を踊るのは当時を

知らない世代のダンサーたちだ。80年代の尖った実験から生まれた動きは既にダンス史の一頁となり、それをテクニックとして学び、習得した若い世代は、そこに彼ら自身の生きた時間と経験を重ね、踊る。新たな発想でアレンジされた部分もあり、どんなダンスも過去の反復ではあり得ない。

ドゥクフレがかける幸福な魔法

だからドゥクフレの世界をすでに知る人にも、初めてそれに会う人にも、『パノラマ』は新鮮な驚きと楽しさをプレゼントしてくれる。大劇場の座席に腰を下ろして開演を待つ間から、サプライズは始まっている(お楽しみに!)。そして非日常の祝祭ムードのなかで『パノラマ』の幕が開くと、男女7人のダンサーがポップでパワフル、時にリリカルで目の眩むほど多様なダンスを息つく間もなく繰り広げていく。足ヒレの装着やスーツのポケットに両手を入れることで身体に不自由さを課した振付、ワイヤーや滑車を用いて身体に幻想的な浮遊感を付与した振付、身体の実像と映像が絡み合うトリック、シンプルだが内省的な身体と影との対話などの独創的な振付スタイルに、踊る身体が30年間に辿った変遷を一

望する楽しみがある。あるいは、いかにも80年代風の肩の強調された原色のスーツに男も女もパワフルさが求められた時代を、虚構のイメージと孤独に向き合う身体にインターネットの普及とともに不在の實在が私たちの生活にびたりと寄り添い始めた時代を、不可思議な細菌たちがうごめく情景に不可視の脅威が日常を脅かし始めた時代を想起することもあるかもしれない。ステージ脇に設えられた楽屋と舞台を行き

来るダンサーの姿も、スペクタクルの時間とその外に流れる現実の時間とのパラレルを暗示するかのようだ。

奇妙で美しく、甘くて刺激的なドゥクフレの愛すべきダンスに身をまかせる快感と、過ぎた時間が新たな容姿をまとい再び現れるのに立ち会う興奮。想像力を刺激して止まない『パノラマ』で、ドゥクフレはまたしても観客を幸福な魔法にかけるのだ。

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
フィリップ・ドゥクフレ カンパニー DCA
『PANORAMA —パノラマ』

日 時：6月13日(金)開演19:30、14日(土)・15日(日)開演15:00
(上演時間/約85分・途中休憩なし)
※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席への案内ができない場合がございます。
会 場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演出・振付：フィリップ・ドゥクフレ
出 演：カンパニー DCA +ゲスト出演 スズキ拓朗
チケット(税込)好評発売中
一 般：S席5,000円/A席3,500円
学 生(高校生以上)：S席3,000円/A席2,000円
子 ども(4歳~中学生)：S席1,500円/A席1,000円
メンバース：S席4,500円/A席3,200円
※A席(サイドバルコニー・2階席の一部)は舞台の一部が見切れます。予めご了承ください。
※本公演への4歳未満の入場はご遠慮いただいております(有料の託児サービスあり/要事前申し込み)。

【関連企画】
フィリップ・ドゥクフレによるレクチャー+映像上映

日 時：6月14日(土)終演後
会 場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール ※入場無料
※詳細は決定次第、HPにてお知らせいたします。
※その他、アンスティチュ・フランセ東京ほかでも開催予定(6月初旬)。

【ドキュメンタリー映画『クレイジー・ホース・バリ 夜の宝石たち』上映決定!】
ドゥクフレ演出・振付のショー『DESIRE』が登場! 詳細はP.21にて

マルチェロ・マーニに聞く ピーター・ブルックと発見する “魔法の瞬間”

稽古の様子は絶対に非公開です。そうでないと、起こるべき魔法が起こらなくなってしまうから——常々こう語っていた演出家ピーター・ブルック。息子サイモンが撮ったドキュメンタリー映画『ピーター・ブルックのザ・タイトロープ(原題)』(9月、渋谷シアター・イメージフォーラムにて公開)には、貴重なエクササイズ風景が収められているが、一体どんな感じだったのだろう。参加した俳優の一人、マルチェロ・マーニ氏に聞いた。

取材・文◎佐藤友紀(ジャーナリスト)



ドキュメンタリー映画

『ピーター・ブルックのザ・タイトロープ(原題)』



Photo ©青柳 聡

マルチェロ・マーニ
Marcello Magni

1983年ロンドンで「テアトル・ド・コンプリシテ」設立に参加。キャサリン・ハンターとの共同作業やピーター・ブルック演出作品への出演など、演出家・俳優として活躍。本年2月東京芸術劇場にて野田秀樹作『障子の国のティンカーベル』を演出した。

Peter Brook: The Tightrope

『Peter Brook: The Tightrope』より ©Brook Productions / Daniel Bardou

「まず大切なのは、あれはリハーサルではなくて、あくまでもピーターと僕たちが行ったエクササイズだということ。ピーターの芝居のリハーサルには、彼と演出パートナーのマリー＝エレヌ・エティエンヌ、そしてステージ・マネージャーの3人だけしか立ち会わないからね。キャサリン・ハンターなどと共演した『フラグメンツ(断章)』の稽古をしている時に、『今日は“タイトロープ”をやってみよう』とピーターが言い出して、実際にそのエクササイズをやってみたらとても難しかったんだ。表面的に動けばいいパントマイムではない、自分がその時、何を感じているかを的確に表現しなければならないエクササイズ。しかも初日からカメラが4台も入るといふ。僕ら参加者はピーターを囲んで大きな円を作って事を進めるんだけど、どうしても各々のカメラとその背後にいる人々を意識してしまう。ふだんはあり得ない存在だからね。後でピーターも『ダイナミズムが変わってしまっ

たね』と言っていたけど(笑)。最初の“タイトロープ”のエクササイズは事前にわかっていたが、続く“リズム”そして“テンペスト”のエクササイズのことは全く知らされていなかったの、余計に緊張してしまったよ」
ただ、ここで不思議なのは、こうしたエクササイズと実際に完成した『フラグメンツ』が繋がっているように見えなかったことだ。
「ピーターは、今やっていることに効果を求めないんだ。“タイトロープ”のエクササイズだって、ちゃんと極めようと思ったらそれこそ一生かかってしまう。笈田ヨシのシンプルな演技、シンプルさを見るのと同じでね。つまり“タイトロープ”のエクササイズの挑戦というものは、いい演技をするための刺激なんだよ。一瞬一瞬を生きる、という意味で。そして次の瞬間を発見していく——まさにジョ・ハ・キュー(序破急)だね。ピーターはよく“演劇は真珠だ”と言うんだけど、一瞬一瞬を感じながら繋いでいくことが演技である、と。その

一瞬を見失ってしまったら、死んでも当然ってことだね。しかも良い役者というのは、繋がれている真珠各々にちゃんと別の色を感じている。これまたヨシは既に出てきているかもしれないが(笑)。生きた演劇を作るには、一生かかってやっていくしかないんだ」
それにしても、映画の中のブルックを見ればわかるが、90歳近いのに集中力は少しも途切れず、けっして声を荒げることもなく微笑んでいる。彼の言う“魔法の瞬間(マジカル・モーメント)”とは一体何なのだろう？
「それは“真実”だと思う。というのは、マジカルとは“初めて何かを発見する瞬間”だから。何が起こるかを期待するのではなく、本当に内側から湧き出てくる真実の思いで、とっても繊細な、もろいものだと思うんだ。実を言うと、真実は壊れやすいということもあって、芝居を作る過程はなるべく少人数で行われるべきなんだけど……なかなか難しいよね」

ところで、筆者は本作を一昨年のベネチア映画祭で初めて観た。同映画祭では、ピーター・ブルックが1967年に監督して、翌68年のカンヌ映画祭に出品するつもりだったのに、フランスの五月革命のあおりを受けたカンヌ映画祭中止のせいで45年間も公開されなかった『Tell Me Lies』も上映。これはグレンダ・ジャクソンなど、当時ブルックが演出をしていたRSC(ロイヤル・シェイクスピア劇団)の俳優たちを起用した。どこかモンティ・パイソンにも似たファンキーでアナーキーな反戦映画で、ブルックの先鋭的な面に改めて感じ入っていたら、旧知のパブリシストが「君が一番喜ぶだろうから」と、ピーター&サイモン・ブルックのインタビューをアレンジしてくれた。ピーターに会うのは本当に久しぶりだったが、ニッコリ微笑んで開口一番「今も笑っていますか?」。伝説の演出家ということもあって、どうしても人々に祭り上げられたり、難しい質問を投げかけ

られがちなブルックが、『ピーター・ブルックのザ・タイトロープ(原題)』を観てもわかるように、誰もが理解できる平易な言葉を使い、演劇の本質に迫る。「優れた作品というのは、観る人、各々のレベルで存在する」とは、そんなブルックから聞いた名

言の一つだが、上演時間が約9時間もある『マハーバーラタ』を「子どもたちがずっと楽しそうに観てくれていたのは、我々にはわからない何かを感じ取っているからでしょうね(笑)」と、本当に嬉しそうな表情だったことを思い出す。

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念

ドキュメンタリー映画

[A]『ピーター・ブルックのザ・タイトロープ(原題)』

(86分/英語・フランス語上映/日本語字幕付)

★9月、渋谷シアター・イメージフォーラムにて公開!

本上映は全国ロードショーに先駆けた特別先行上映です。

[B]『Brook by Brook』(70分/英語・フランス語上映/日本語字幕付)

日時: 7月19日(土) 12:30(A)*1 / 16:00(B) / 18:00(A)*2
20日(日) 11:00(A) / 14:00(B) / 16:00(A)

*1…サイモン・ブルック(監督)と河合祥一郎(東京大学教授)によるアフタートークあり。

*2…サイモン・ブルック(監督)と松岡和子(翻訳家)によるアフタートークあり。

会場: 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

監督: サイモン・ブルック

チケット(税込) 好評発売中

[1作品]一般・メンバーズ: 1,000円(当日1,200円) 学生: 500円

[2作品セット券]一般・メンバーズ: 1,500円(当日2,000円) 学生: 700円

※2作品セット券は、同日内の組み合わせに限りません。

パリ留学で目覚めた基礎の大切さ

2010年11月、スイスのジュネーヴで開催された第65回ジュネーヴ国際コンクールのピアノ部門において、初めて日本人の優勝者が誕生した。広島市出身で、パリ国立音楽院およびパリ地方音楽院室内楽科卒業の萩原麻未である。

同コンクールは1939年創立の伝統あるコンクール。ミケランジェリ、ショルティ、グルダ、ティーボ、アルゲリッチら名だたる優勝者を世に送り出している。そこに日本の若きピアニストが堂々と名を連ねたのである。

萩原麻未は幼いころからピアノを弾くこ

とが大好きだった。練習を強制されることもなく、自由に弾いて楽しんでいた。先生も彼女の個性と自発性を重んじ、型にはめずに長所を伸ばす指導を実践してくれた。「ですからいつも自分の思いを自由に表現していたのですが、パリに留学してジャック・ルヴィエ先生に就いてから、あまりのきびしさに驚き、練習法が変わりました。先生の教えは、作曲家の意志を重んじ、自分の意志を抑えるようにというものだったからです」

ルヴィエは多くの弟子を抱える名教授として知られる。彼女は改めて基礎の大切さに目覚め、必死でそれに取り組むようになった。

もちろん、幼いころから留学したいと願っていた夢がかない、パリでの生活を十分に堪能しながら、練習の合間に散歩をしたり美術館に足を運ぶなどして自身の感性を磨いていく。そして留学後5年経過したとき、ジュネーヴ国際コンクールを受ける決意をした。

「コンクールから3年経ったいまは、室内楽でいろんな楽器との共演を行っています。他の楽器から学ぶことは多く、私の糧となり、それがピアノ・ソロにとっても役立つのです」

室内楽が大好きゆえ、今回のようなリサイタルは貴重な機会となる。彼女はプログラムにも時間をかけ、じっくりと練り上げた。

日本人初のジュネーヴ国際コンクール優勝から3年。萩原麻未がこれまでの経験を生かしたプログラムで、“いま”の心身の充実を表現する。

Interview

萩原麻未

取材・文◎伊熊よし子（音楽ジャーナリスト／音楽評論家） Photo◎中島正之

室内楽で学んだ多くのことを、
ピアノ・ソロに生かしたい



萩原の足跡をたどるプログラム

「いま一番弾きたい作品を並べたら、自然にフランスの作品になったのです。静から動へと移り変わる選曲にしたかったため、冒頭にフォーレの夜想曲をもってきました。夜想曲は第6番までの初期の作品に共感を抱いていますので、変ホ短調と変ホ長調という調性のつながりを考慮して第1番と第4番を選びました。第7番以降はもう少し年を重ねてから取り組もうと思っています。フォーレはピアノ五重奏曲第2番が大好きで、録音もたくさん聴いています。フォーレの音楽は哀愁を帯びた旋律、緊張感あふれるハーモニーが魅力的、ぜひ冒頭で演奏したかったのです」

次いでドビュッシーの2作品が登場する。「ドビュッシーもヴァイオリンやチェロとのソナタをよく弾いています。自然の中にある音、葉と葉のこすれる音や風の音、水面の揺れの様子など、こんなに自然に表現されていることにドビュッシーの音楽の魅力を感じています。《喜びの島》はドビュッシー自身が《ベルガマスク組曲》の中に加え

ようとしていたこともあり続けて演奏したく、組み合わせってみました」

これにラヴェルのピアノ協奏曲を得意とする、萩原麻未のラヴェルのソロ作品が続く。「ラヴェルは精巧で均整のとれた、上品で華やかな音楽。後半は次第に動きのある作品へと移り、ラヴェルのワルツを2曲演奏します。理性を保ちながら色彩感を意識し、オーケストラのような響きを出したいですね」

今回のリサイタルでは、ひとつのサプライズともいべき作品が最後を飾る。「現代作品をぜひ演奏したいのです。ジェフスキーのこの曲はパリ音楽院の先輩ロマン・デシャルムが録音し、それを聴いてぜひ弾いてみたいと思いました。アメリカの紡績工場で働いている人々の過酷な労働のなかから生まれた曲で、機械的な音が続いた後、突然ブルースやジャズが出現し、ひじを使って演奏する箇所もあります。もっ

と多くの人に曲のよさを知ってほしいと願い、最後に入れました。楽しんでいただければと思います」

このリサイタルのプログラムは、萩原麻未のこれまでの足跡をたどる意味合いも含まれている。彼女は子どものころにフォーレの夜想曲やラヴェルの《ラ・ヴァルス》に出会い、作品の深い内容までは理解できないものの、音楽のすばらしさに魅了された。留学し、コンクール優勝を果たしてからはさまざまな音楽家との室内楽を楽しみ、作曲家の真意へと近づいている。そうしたすべての経験が、今回のリサイタルの素地となっている。

「子どものころから弦楽器にあこがれ、独学したこともあります。いまはヴァイオリンやチェロと合わせたくさんのことを学ぶことができ、ピアノもそのように奏でたいと思っています。リサイタルではそんなさまざまな経験を生かしたい！」

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.25 萩原麻未

日 時：6月22日(日) 開演15:00
会 場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲 目：フォーレ／夜想曲第1番 変ホ短調
フォーレ／夜想曲第4番 変ホ長調
ドビュッシー／ベルガマスク組曲(前奏曲 メヌエット 月の光 パスビエ)
ドビュッシー／喜びの島
ラヴェル／高雅で感傷的なワルツ
ラヴェル／ラ・ヴァルス
ジェフスキー／ウィンスボロ・コットン・ミル・ブルース

チケット(税込) 好評発売中

一般：正面席 3,500円

メンバーズ：正面席 3,200円

※バルコニー席、学生席は予定枚数終了。

※4公演セット券(Vol.24～26、アンコール! Vol.3)は6月7日までの販売となります。



Photo◎Akira Muto

萩原麻未 (はぎわら・まみ)

広島出身。2010年のジュネーヴ国際コンクールにて、1位無しが続いていたピアノ部門で8年ぶり、かつ日本人初の優勝を果たす。第27回バルマードーロ国際コンクールにて史上最年少の13歳で第1位に輝く。文化庁海外新進芸術家派遣員として渡仏し、パリ国立高等音楽院、同音楽院修士課程及びパリ地方音楽院室内楽科を卒業。現在パリを拠点にしながら、ザルツブルグのモーツァルテウム音楽院で研鑽を重ねる。ホテルオークラ音楽賞、新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞ほか受賞多数。12年春には文化庁長官表彰(国際芸術部門)を受けた。

Mami Hagihara

2015年3月末で閉館する熊谷会館

熊谷会館はこれが見納め 夏の盛りの歌舞伎&クラシック

中村歌昇改め三代目中村又五郎襲名披露
中村種太郎改め四代目中村歌昇襲名披露

松竹大歌舞伎

今年の「松竹大歌舞伎」は、中村又五郎 & 歌昇親子のダブル襲名披露でにぎにぎしく贈る。歌昇改め又五郎が勤めるのは、『傾城反魂香』の絵師、浮世又平。吃音に悩む又平は世渡りも下手とあって、出世でも弟子に先を越される始末。絶望する又平を支えるのは夫の代わりに放つておいてもよく喋る女房おとくだ。対照的だけれど仲のいい夫婦の情愛がしみじみ胸を打ち、クライマックスではなんと奇跡も起きて大団円を迎える。通称「吃又」と呼ばれる人気狂言で、端正で爽やかな口跡の良さで知られ

る又五郎が吃音の又平を訥々と演じるころがまた味わい深い。何かと生きづらい昨今、誠実に仕事に邁進すること、それでもやはり他人を羨んでしまう焦りや嫉妬心、夫のためになりふり構わぬ妻の献身、いかにハンディを克服するかなど、今日的なテーマも考えさせられる佳品だ。

一方、又五郎の長男の種太郎改め歌昇は、『双蝶々曲輪日記』の「角力場」で、中村吉右衛門の胸を借りる。人気・実力共にピカイチの力士、濡髪長五郎（吉右衛門）との取組に勝った素人角力出身の放駒長吉（歌昇）。

だが長吉が勝ったのはどうやら実力ではなかったようで——と、何やら不穏な匂いがふんぶん。鼻っ柱の強い若者と貫禄十分のスター力士との対比、恩義あるひいきの旦那のための苦渋と意地の張り合いも見どころで、当時かにか力士が花形職業だったかもよくわかる。堂々たる吉右衛門の濡髪にほればれすること請け合いだ。そんな吉右衛門に真っ直ぐにぶつかる歌昇を応援しながら見守りたい。

又五郎、歌昇の襲名披露興行も3年目を迎え、それぞれ新しい名前にもなじんできた頃だろう。が、やはり親子揃っての「口上」はおめでたいもの。襲名を機に芸が格段に進歩するとはよく言われることで、又五郎の存在感は襲名後ますます大きくなっている。

伸び盛りの若手ホープ、歌昇の今後にも大いに期待したい。



©松竹
中村吉右衛門
中村歌六
中村芝雀
中村錦之助
中村歌昇
中村種太郎

公演概要

松竹大歌舞伎

中村歌昇改め三代目中村又五郎襲名披露
中村種太郎改め四代目中村歌昇襲名披露

日 時：7月1日(火) 昼の部12:30 / 夜の部17:00
会 場：熊谷会館 ホール ※当日は熊谷駅・熊谷会館間の臨時バスを運行します。
演 目：一、双蝶々曲輪日記「角力場」
二、三代目中村又五郎 四代目中村歌昇「襲名披露 口上」
三、『傾城反魂香』土佐将監閑居の場
出 演：中村吉右衛門、中村又五郎、中村歌昇 ほか

チケット(税込) 好評発売中
一 般：特等席6,000円 / 一等席4,500円 / 二等席2,000円 / おためし席1,000円
メンバーズ：特等席5,400円 / 一等席4,100円 ※イヤホンガイド(有料)あり。



©松竹

右より中村又五郎、中村歌昇 「口上」

夏の恒例、松竹大歌舞伎と『夏休みオーケストラランド!』が今年もやってくる。来年3月で閉館する熊谷会館では今年がラスト公演。名残りを惜しみに、ぜひ。



埼玉会館 / 熊谷会館ファミリー・クラシック

夏休みオーケストラランド!

大迫力のオーケストラ・サウンドを体感!

聴いて♪ 歌って♪ 演奏して♪

2006年にスタートし、毎夏恒例となった「夏休みオーケストラランド!」。長らく続く人気の秘密は、指揮者の飯森範親とナビゲーターの朝岡聡による楽しい解説とともに、親しみのある曲を重厚なオーケストラの生音で堪能できるうえに、「指揮者にチャレンジ!」(公演当日、開演前に参加者募集のうえ抽選)や、オーケストラと一緒に歌や楽器で共演できる「みんなで歌おう&演奏し

よう!」というお楽しみコーナーもあって、まさにオーケストラと一体になって音楽を楽しめるから。

まずは、華やかなファンファーレがコンサートの開幕を告げる。前半は、ブラームスの《ハンガリー舞曲第10番》で心躍るリズムをオーケストラが刻み、《ディズニーのメロディーによる管弦楽入門》では、誰もが知っているディズニーのメロディーにのせ

てオーケストラの楽器を紹介する。そして、子どもソリストには昨年全日本学生音楽コンクールで優勝をかざった中学1年生の中村崇仁(7/27)、中学3年生の大関万結(8/3)をむかえ、それぞれピアノとヴァイオリンでプロ顔負けの演奏を披露する。後半は参加コーナーも。飯森範親から指揮棒の振り方を教わる「指揮者にチャレンジ!」では《カルメン》前奏曲、「みんなで歌おう&演奏しよう!」では《さんぽ》(映画『となりのトトロ』より)でオーケストラと共演する。そしてコンサートを締めくくるとは、ソチ五輪で聖火点灯や町田樹選手のフリー演技で使われたバレエの名曲《火の鳥》(7/27)、『のだめカンタービレ』でおなじみのベートーヴェン《交響曲第7番》(8/3)と、盛り沢山の内容だ。

耳なじみのある曲を、ど迫力のオーケストラ・サウンドに包まれながら聴く感覚は爽快だ。「はじめてのオーケストラで、すごいはくりよかったです」「多種類の楽器の音のすばらしさ、強弱、深い音色、心にひびきました」(アンケートより)と、生音に触れた時の感動は深くいつまでも心に残るもの。大切な夏休みの思い出に、家族みんなで「夏休みオーケストラランド!」に行こう!



「みんなで歌おう&演奏しよう!」コーナー Photo ©加藤英弘

公演概要

埼玉会館 / 熊谷会館ファミリー・クラシック夏休みオーケストラランド!

日時・会場：7月27日(日) 開演14:00 埼玉会館 大ホール
8月3日(日) 開演15:00 熊谷会館 ホール
出 演：飯森範親(指揮)、朝岡聡(ナビゲーター)、東京交響楽団(管弦楽)
(子どもソリスト) [7/27] 中村崇仁(ピアノ / 第67回全日本学生音楽コンクール全国大会小学校の部 第1位) [8/3] 大関万結(ヴァイオリン / 同大会中学校の部 第1位)
曲 目：デュカス / 《ラ・ペリ》のファンファーレ
ブラームス / ハンガリー舞曲第10番
小室昌広 / ディズニーのメロディーによる管弦楽入門
♪子どもソリスト演奏曲
ベートーヴェン / 《ピアノ協奏曲第1番》より第3楽章 *7/27
サン＝サーンス / 序奏とロンド・カプリチオーソ *8/3
グリーグ / 《ホルベアの時代から》より(前奏曲)
♪指揮者にチャレンジ! *公演当日、開演前に参加者募集。抽選。
ビゼー / 《カルメン》前奏曲
♪みんなで歌おう&演奏しよう! *歌や好きな楽器を持って来てオーケストラと共演!
久石 譲 / 映画『となりのトトロ』より(さんぽ)
ストラヴィンスキー / バレエ組曲《火の鳥》(1919年版)より *7/27
ベートーヴェン / 《交響曲第7番》より 第1楽章 *8/3
※会場によって、子どもソリスト、曲目の一部が異なります。

チケット(税込) 好評発売中

一 般：大人 S席3,500円 / A席3,000円 子ども(3歳~中学生) S席1,500円 / A席1,000円
メンバーズ：大人 S席3,200円 / A席2,700円
※本公演への3歳未満の入場はご遠慮いただいております(有料の託児サービスあり / 要事前申込み)。



「指揮者にチャレンジ!」
(公演当日、開演前に参加者募集!)
Photo ©加藤英弘

Kayoko Shiraishi

女優 白石加代子

長年続けてきた「百物語」シリーズがついにファイナルを迎える白石加代子。しっかり者の少女が現実から逃れるための“遊び”は、やがて唯一無二の光を放つ女優を育てていった。“ドラマチックすぎる”との評は何よりの勲章だ。

取材・文◎市川安紀



「ドラマチックな“物語”が好きなんです」

現実を忘れる「楽しいこと」

幼い頃は性格的に少し過剰な子だったんです。踊ったり騒いだり、あまりにも落ち着きがないものだから母が心配して、日本舞踊を習わせたのね。それが表現の道への入口だったかもしれません。小学校に上がると移動演劇で観た『そら豆の煮えるまで』というお芝居が面白くて。詳しい話は忘れたけれど、王冠にヴェールを被った王女様をよく覚えています。それで近所の子を家に集めては、お芝居のまねごとをして遊ぶようになりました。冠や幕を手作りして、自分で物語を書いてみたり。テレビもラジオもなかったから、それが娯楽だったんです。我が家は早くに父を亡くした母子家庭。母は働きに出ていて長女の私は妹と弟の面倒を見ないといけないし、いつもお腹が空いているし、覆いかぶさるような苦しい日常からの逃げ場だったのかもしれない。でも同時に一番楽しいものでもあって、それは今も変わりませんね。

20年以上続けてきた「百物語」は特に楽

しくて、「仕事なのにそんなに楽しんでいいのか」なんて演出家に言われちゃう(笑)。結局私は、「物語」が好きなんです。

それで思い出すのが、蛭川幸雄さんと初めて一緒した『夏の夜の夢』(1994年)。私はティターニアという妖精の女王役で、ロンドンでも公演しました。その時のイギリスの劇評で蛭川版の舞台そのものは大いに褒められたけれど、「ティターニアはドラマチックすぎる」と書かれたんです。「何言ってるのかしらこの国



彩の国シェイクスピア・シリーズ第5弾
『夏の夜の夢』(2000年/彩の国さいたま芸術劇場)
Photo ©高嶋ちぐさ

は?」って、笑っちゃいました。そしてむしろ誇りに思いました。つまり、私はドラマチックなもの、「物語」が本当に好きなんだと再確認したんです。ティターニアは一般的には森の妖精だけれど、蛭川さんは土の中から砂をかき分けてお付きの妖精たちを従えての登場に変えてくれたの。それって「地母神」でしょ? ちょっとブレると妖怪になるけどね(笑)。「夏の夜の夢」は本当に楽しい作品でした。

幸せな出会いを重ねて

私は女優としてとても恵まれてきたと思います。演出家では早稲田小劇場での鈴木忠志さんに始まり、蛭川さん、『百物語』の鴨下信一さん、野田秀樹さん、宮本亜門さん、鶴山仁さん、最近では長塚圭史さん、青山真治さん……外国の演出家ともたくさん一緒しました。キャリア・チャーチルの『トップガールズ』(レズ・ウォータース演出)という作品では、アンジーというちょっと抜けてる女の子の役が忘れられません。自分の中に彼女に似た因子を感じて、とっもいとおしかったの。また“あの子”に会いたいですね。

これからは自分の体力とも相談しながら仕事を考えていかなければいけないけれど、日本の若い作家さんが書く創作劇に参加してみたいという思いはあります。昨年、長塚さん作・演出の『あかいくらやみ』という作品に参加して、こつこつと創りあげていく稽古場がとても楽しかったです。どこに辿り着くかはわからないけれど、とにかく全員で出来る限りのことをやってみる、という過程が面白いし、大事なんですよね。

こうして考えてみると、本当に素敵な方々や作品に出会ってきました。申し訳ないくらい幸せな女優なんです。

しらいし・かよこ 東京都出身。1967年早稲田小劇場(現 SCOT)入団。代表作『劇的なものをめぐってII』などに主演し活躍する。89年に退団後は現代演劇を代表する演出家の作品に数多く出演。近年の舞台に、野村萬斎演出『サド侯爵夫人』、長塚圭史演出『あかいくらやみ』、蛭川幸雄演出『ムサシ』ロンドン・NYバージョンなど。鴨下信一演出による『百物語』白石加代子の源氏物語シリーズでは新たな「語り物」の世界を創出している。2005年紫綬褒章、12年旭日小綬章受章。

★白石加代子「百物語」公演情報はP.8をご参照ください。

DANCE 3月20日~23日

ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団 『KONTAKTHOF—コンタクトホーフ』



Photo © Arnold Groeschel

1978年初演のピナの代表作『コンタクトホーフ』。86年の来日時に「ふれあいの館」と副題が付けられていたように、ダンスホールらしき一室で、スーツとカラフルなドレスに身を包んだ男女たちが出会う。30年代ドイツのポピュラー音楽、壁際に並べられた椅子、電気木馬、緞帳のある小さなステージ。ここで描かれる男女の触れあいと葛藤。断片的なシーンの連続の中で、ダンサーが繰り出す日常のふとした仕草—とはいえダンサーの肉体を通してとびきり優雅になっている—が、観る人の記憶や経験といったパーソナルな

部分と深く結びつき心を射貫く。愛し愛されること。それはいつの時代でも誰しもがもつ根源的な願い。初演から36年経ち、ピナ亡き後も、変わらずこの作品が世界中で深い感動を呼び起こすのは、そこに甘さと残酷さが同居するという真実を、鋭く鮮烈に描き出したピナの厳しく暖かな眼差しと問いかけが、ピナの遺志を継いだダンサーたちを通して、色あせることなく、ありありと伝わってくるからに他ならない。

MUSIC 3月15日

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.2 北村朋幹

5年ぶりの登場となる北村朋幹。その間の充実ぶりを感じさせるプログラミングで、シューマンの《4つのフーガ》、多種多様な響きを追求したベリオの《セクエンツァIV》、トリルを多用したスクリャーピンの《ソナタ第10番》、そしてピアノ音楽史上の大作「ハンマークラヴィーア」。どれも高い知性と感性、技巧を要する難曲だが、北村の紡ぐ音はどれも考え抜かれ、生命力あふれる熱のこもった演奏で陶酔感と高揚感をもたらした。奏者だけでなく、聴衆も相当な集中力とエネルギーを必要とされる濃密な演奏会となった。

Photo ©加藤英弘



MUSIC 4月19日

バッハ・コレギウム・ジャパン バッハ《マタイ受難曲》

日本が世界に誇る古楽アンサンブル、バッハ・コレギウム・ジャパンによる《マタイ受難曲》を604席の空間で聴く。これ以上の贅沢はそうそうない。各登場人物の繊細な感情の揺らぎまで雄弁に表現するソリストたち、物語に厚みをもたらす、そして安らぎを与えるコーラル、劇的で求心力のある管弦楽が一体となって、キリストの受難の物語を目前に立ちのぼらせる。鈴木雅明の指揮のもと、力強く圧倒的な表現力で、宗教や言葉を超えて感動をもたらす熱演に誰もが胸を熱くした。



Photo ©加藤英弘

★特に記載のないものは彩の国さいたま芸術劇場で開催。19

PLAY		DANCE		MUSIC		CINEMA	
5	may	開演時間	開演時間	開演時間	開演時間	5	may
15	木	15	13:30				木
16	金						金
17	土						土
18	日						日
19	月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)					月
20	火	休館日(熊谷会館)					火
21	水	休館日(熊谷会館)					水
22	木						木
23	金						金
24	土						土
25	日						日
26	月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)					月
27	火						火
28	水						水
29	木						木
30	金						金
31	土						土

PLAY		DANCE		MUSIC		CINEMA	
6	june	開演時間	開演時間	開演時間	開演時間	6	june
1	日	1	18:00				日
2	月		13:30/18:30				月
3	火						火
4	水		13:30				水
5	木		13:30/18:30				木
6	金		13:30				金
7	土		12:30/18:00				土
8	日						日
9	月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)					月
10	火	休館日(埼玉会館)					火
11	水	休館日(埼玉会館)					水
12	木						木
13	金		19:30				金
14	土		15:00				土
15	日		15:00				日
16	月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場、熊谷会館)					月
17	火						火
18	水						水
19	木						木
20	金						金
21	土						土
22	日						日
23	月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)					月
24	火	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)					火
25	水						水
26	木						木
27	金						金
28	土						土
29	日						日
30	月						月

PLAY		DANCE		MUSIC		CINEMA	
7	july	開演時間	開演時間	開演時間	開演時間	7	july
1	火	1	12:30/17:00				火
2	水						水
3	木						木
4	金						金
5	土						土
6	日						日
7	月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)					月
8	火						火
9	水						水
10	木						木
11	金						金
12	土						土
13	日						日
14	月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)					月
15	火	休館日(熊谷会館)					火
16	水						水
17	木						木
18	金						金
19	土						土
20	日		14:00				日
21	月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)					月
22	火						火
23	水	休館日(埼玉会館)					水
24	木						木
25	金						金
26	土						土
27	日						日
28	月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)					月
29	火						火
30	水						水
31	木						木

PLAY

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
ニナガワメジエクスピアレジェンド第1弾
『ロミオとジュリエット』

チケット発売日 一般：6月7日(土)
メンバーズ：5月25日(日)

詳細は ⇒ P.3 ~6

DANCE

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
白石加代子「百物語」シリーズ
第三十二夜 第99話 ファイナル公演
第98話 三島由紀夫「橋づくし」
第99話 泉鏡花「天守物語」

チケット発売日 一般：6月21日(土)
メンバーズ：6月14日(土)

詳細は ⇒ P.8

MUSIC

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
彩の国さいたま寄席 四季彩亭
~彩の国落語大賞受賞者の会
三遊亭兼好

秋の四季彩亭には平成25年度彩の国落語大賞を見事受賞した三遊亭兼好が登場。ゲストは師匠で笑点でもおなじみの三遊亭好楽。お楽しみに。

チケット発売日 一般：7月20日(日)
メンバーズ：7月13日(日)

Photo © 加藤英弘

CINEMA

彩の国シネマスタジオ
ドキュメンタリー映画特集
A 『二郎は鯨の夢を見る』
B 『マリリン・モンロー 瞳の中の秘密』
C 『クレイジーホース・パリ 夜の宝石たち』

上映時間
10:30(A) / 13:30(B) / 16:45(C)
10:30(A) / 13:30(B) / 19:00(C)
10:30(A) / 13:30(B) / 17:00(C)

チケット発売日 一般：7月20日(日)
メンバーズ：7月13日(日)

PLAY

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
彩の国シェイクスピアシリーズ第29弾
『ジュリアス・シーザー』

チケット発売日 一般：7月19日(土)
メンバーズ：7月12日(土)
※メンバーズプレオーダー(抽選)があります。

詳細は ⇒ P.7

DANCE

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
さいたまゴールドシアター×瀬山亜津咲
新作ダンス公演

チケット発売日 一般：6月8日(日)
メンバーズ：6月1日(日)

詳細は ⇒ P.9

MUSIC

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第2回
仲道郁代 ピアノ・リサイタル

新シリーズ第2弾には、次の世代に音楽の素晴らしさを伝えることに情熱を傾け続けている仲道郁代が登場。

チケット発売日 一般：5月31日(土)
メンバーズ：5月24日(土)

Photo © Kiyotaka Saito

CINEMA

彩の国シネマスタジオ
ドキュメンタリー映画特集
A 『二郎は鯨の夢を見る』
B 『マリリン・モンロー 瞳の中の秘密』
C 『クレイジーホース・パリ 夜の宝石たち』

上映時間
10:30(A) / 13:30(B) / 16:45(C)
10:30(A) / 13:30(B) / 19:00(C)
10:30(A) / 13:30(B) / 17:00(C)

チケット発売日 一般：7月20日(日)
メンバーズ：7月13日(日)

**新日本フィルハーモニー交響楽団
井上道義(指揮)
竹澤恭子(ヴァイオリン)**

2012年、N響と共にベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲&「田園」で聴衆をうならせた井上道義が、対をなすブラームス・プログラムで再登場!

Photo © Orcestra Ensemble Kanazawa Photo © Tetsuro Takai

【チケット発売延期のお知らせ】井上道義氏の6月末までの演奏活動休止に伴い、発売を延期することになりました。決定次第、HP等にてお知らせいたします。

日時：11月29日(土) 開演15:00
会場：埼玉会館 大ホール
曲目：ブラームス/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77
ブラームス/交響曲第2番 二長調 作品73

チケット(税込)
一般：S席6,000円/A席5,000円/B席4,000円(学生2,000円)
メンバーズ：S席5,500円/A席4,500円/B席3,600円

【共催公演】池辺晋一郎の指揮とお話による
楽しい東京混声合唱団
アフタヌーンコンサート

チケット発売日 一般：6月2日(月)
メンバーズ：5月31日(土)

日時：9月4日(木) 開演13:30
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：池辺晋一郎編曲 / MEET THE CHORAL BEATLES
池辺晋一郎/六つの子守歌 ほか

チケット(税込)
一般：3,500円 メンバーズ：3,200円

**ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.26
アレクサンダー・ロマノフスキー**

チケット発売日 一般：7月26日(土)
メンバーズ：7月19日(土)

Photo © Kiyotaka Saito

彩の国シネマスタジオ LINE UP 2014.6-9

料金：【6月・7月】大人1,000円 / 小中高生800円(当日支払いのみ)
【8月以降の料金改定】大人1,000円 / 学生500円(学生証を確認する場合がございます)
※当日支払いのみ ※未就学児無料

6月13日(金)~15日(日)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

ドキュメンタリー映画特集
A. 『二郎は鯨の夢を見る』
B. 『マリリン・モンロー 瞳の中の秘密』
C. 『クレイジーホース・パリ 夜の宝石たち』

13日(金) 10:30(A) / 13:30(B) / 16:45(C)
14日(土) 10:30(A) / 13:30(B) / 19:00(C)
15日(日) 10:30(A) / 13:30(B) / 17:00(C)

A. 『二郎は鯨の夢を見る』
監督：デヴィッド・ゲルブ
出演：小野二郎 ほか
(2011年/アメリカ/82分)

B. 『マリリン・モンロー 瞳の中の秘密』
監督：リズ・ガルバス
出演：マリリン・モンロー ほか
(2012年/アメリカ・フランス/108分)

C. 『クレイジーホース・パリ 夜の宝石たち』
監督：フレデリック・ワイズマン
(2011年/フランス・アメリカ/134分/R15+)
※映像に収められたショー「DESIRE」の演出・振付を手がけたフィリップ・ドゥックフレが8年ぶりに来日! 6/13~6/15に彩の国さいたま芸術劇場にて「パノラマ」を上演します。詳細はP.10~11

7月10日(木)~13日(日)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

A 『飛べ! ダコタ』
B 『すーちゃん まいちゃん さわ子さん』

10日(木) 10:30(A) / 14:00(A) / 17:00(B)
11日(金) 10:30(A) / 14:00(B) / 17:00(A)
12日(土) 10:30(B) / 14:00(A) / 17:00(A)
13日(日) 10:30(A) / 14:00(B)

A 『飛べ! ダコタ』 監督：油谷誠至
出演：比嘉愛未、窪田正孝、柄本明 ほか(2013年/日本/109分)
B 『すーちゃん まいちゃん さわ子さん』 監督：御法川 修
出演：柴咲コウ、真木よう子、寺島しのぶ ほか(2012年/日本/106分)

8月7日(木)~10日(日)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『あなたを抱きしめる日まで』

7日(木) 10:30 / 14:00 8日(金) 10:30 / 14:00
9日(土) 10:30 / 14:00 10日(日) 10:30 / 14:00

監督：ステューヴン・フリアーズ
出演：ジュディ・デンチ、ステューヴン・クーガン ほか
(2013年/イギリス/98分)

9月13日(土)~15日(月・祝)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『もうひとりの息子』

13日(土) 10:30 / 14:00 / 17:00
14日(日) 10:30 / 14:00 / 17:00
15日(月・祝) 10:30 / 14:00

監督・脚本：ロレーヌ・レヴィ
出演：エマニュエル・ドゥヴオス、パスカル・エルベ、ジュール・シトリユク ほか(2012年/フランス/105分) 21

PLAY

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
『海辺のカフカ』

日時：6月1日(日)～6月7日(土)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
原作：村上春樹
脚本：フランク・ギャラティ
演出：蛭川幸雄
出演：宮沢りえ、藤木直人、古畑新之(新人)、鈴木 杏、
柿澤勇人、高橋 努、鳥山昌克、木場勝己 ほか
チケット(税込)
一般・メンバーズ：S席9,800円/A席7,000円
※当日券のお支払いは現金のみとなります。※残席僅少

松竹大歌舞伎
中村歌昇改め三代目中村又五郎襲名披露
中村種太郎改め四代目中村歌昇襲名披露

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
彩の国さいたま寄席 四季彩亭
～林家たい平とおすすめ若手落語会

日時：7月20日(日) 開演14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演：林家たい平、隅田川馬石、三遊亭天どん、金原亭馬治
チケット(税込)
一般・3,000円 メンバーズ2,700円 ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円

DANCE

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
コンドルズ 埼玉公演2014新作『ひまわり』

日時：5月24日(土) 開演14:00 / 19:00、
25日(日) 開演15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
構成・映像・振付：近藤良平
出演：コンドルズ
チケット(税込)
一般：前売S席4,500円/A席3,500円
学生：前売S席3,000円/A席2,000円
メンバーズ：前売S席4,100円/A席3,200円
※A席(サイドバルコニー)は舞台の一部が見切れます。
※当日券は各席種ともに+500円(メンバーズ+400円)

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
フィリップ・ドゥクブレ カンパニーDCA
『PANORAMA ーパノラマ』

日時：5月24日(土) 開演14:00 / 19:00、
25日(日) 開演15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
構成・映像・振付：近藤良平
出演：コンドルズ
チケット(税込)
一般：前売S席4,500円/A席3,500円
学生：前売S席3,000円/A席2,000円
メンバーズ：前売S席4,100円/A席3,200円
※A席(サイドバルコニー)は舞台の一部が見切れます。
※当日券は各席種ともに+500円(メンバーズ+400円)

CINEMA

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
【ドキュメンタリー映画】
A 『ピーター・ブルックのザ・タイトロープ(原題)』
B 『Brook by Brook』

MUSIC

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画
「次代へ伝えたい名曲」第1回
堤 剛 チェロ・リサイタル

日時：5月24日(土) 開演14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演：堤 剛(チェロ)、上田晴子(ピアノ)
曲目：ベートーヴェン/チェロ・ソナタ 第5番 二長調
武満 徹/オリオン ほか
チケット(税込)
一般：正面席4,000円 メンバーズ：正面席3,600円
※バルコニー席、学生席は予定枚数終了

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.24 ペプツド・アブドゥライモフ
Vol.25 萩原麻未
Vol.26 アレクサンダー・ロマノフスキー
アンコール! Vol.3 小菅 優
【4公演セット券】
【Vol.24、Vol.25、アンコール! Vol.3 各1回券】

日時・曲目：【Vol.24】6月8日(日) 開演15:00
サン＝サーンス(リスト&ホロヴィッツ編曲)/
死の舞踏 ほか
【Vol.25】6月22日(日) 開演15:00
ラヴェル/ラ・ヴァルス ほか
【Vol.26】2015年1月17日(土) 開演15:00
ショパン/ソナタ第2番 変短調 ほか
【アンコール! Vol.3】9月13日(土) 開演15:00
ベートーヴェン/ソナタ第21番 八長調「ヴァ
ルトシュタイン」ほか
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
チケット(税込)
【4公演セット券】※6月7日(土)までの販売
一般・メンバーズ：正面席12,500円
※バルコニー席・学生席は予定枚数終了。
【1回券】※Vol.26は7/26(土)発売(メンバーズ7/19(土))
(Vol.24、Vol.25)一般：正面席3,500円/バルコニー席
2,500円(学生1,000円) メンバーズ：正面席3,200円
(アンコール! Vol.3)一般：正面席4,000円/バルコニー席
3,000円(学生1,500円) メンバーズ：正面席3,600円

埼玉会館ファミリー・クラシック
熊谷会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストランド!

埼玉会館ランチタイム・コンサート第26回
塚越慎子 マリンバ・リサイタル

日時：9月18日(木) 開演12:10(終演予定13:00)
会場：埼玉会館 大ホール
出演：塚越慎子(マリンバ)、石黒唯久(ピアノ)
曲目：サラサーテ/ツィゴイネルワイゼン
ピアソラ(サミュエル編曲)/リベルタンゴ ほか
チケット(税込)
全席指定 1,000円

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
ピエール＝ロラン・エマール
バッハ《平均律クラヴィーア曲集第1巻》
全曲演奏会

日時：10月4日(土) 開演15:00(休憩なし)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演：ピエール＝ロラン・エマール(ピアノ)
曲目：平均律クラヴィーア曲集第1巻 全曲演奏会
一般：正面席6,000円/バルコニー席5,000円(学生2,500円)
メンバーズ：正面席5,500円

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
レ・ヴァン・フランセ

日時：10月12日(日) 開演17:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演：エマニュエル・バユ(フルート)
フランソワ・ルルー(オーボエ)
ポール・メイエ(クラリネット)
ラドヴァン・ヴラトコヴィチ(ホルン)
ジルベール・オダン(バスーン)
エリック・ル・サーージュ(ピアノ)
曲目：リムスキー＝コルサコフ/
ピアノと管楽のための五重奏曲
ブランク/六重奏曲 ほか
チケット(税込)
一般：正面席6,000円
メンバーズ：正面席5,500円
※バルコニー席・学生席は予定枚数終了。

3歳以上のお子様から楽しんでいただける公演です。

THEATER BRIDGE

Information

『ヘンリー四世』フォルスタッフ役 吉田鋼太郎さんが 芸術選奨文部科学大臣賞を受賞しました

彩の国シェイクスピア・シリーズ第27弾『ヘンリー四世』(2013年4～5月/彩の国さいたま芸術劇場 大ホール)にてフォルスタッフ役で出演された吉田鋼太郎さんが、「第64回芸術選奨」において文部科学大臣賞(演劇部門)を受賞いたしました。吉田さんは、彩の国シェイクスピア・シリーズでは、『タイタス・アンドロニカス』『オセロー』『アントニーとクレオパトラ』などの主演を務め、本シリーズに欠かせない顔として活躍されています。「多数あるシェイクスピアの登場人物の中でも特に表象の難しいフォルスタッフ」を「爆発的な生命力に満ちた愛嬌あふれる演技」で見事に具現化したと高く評価され、今回の受賞となりました。



フォルスタッフを演じる吉田鋼太郎
Photo ©渡部孝弘

Information

平成25年度「彩の国落語大賞」は 三遊亭兼好に決定!

彩の国さいたま芸術劇場では、『彩の国さいたま寄席～四季彩亭』の出演者のうち、若手落語家を対象に、年間で最も優れた演者を選定し、『彩の国落語大賞』を贈呈しています。平成25年度の大賞受賞者は、2013年4月に『彩の国さいたま寄席～四季彩亭 柳亭市馬と若手落語家競演会』にて、「壺算(つぼざん)」を披露した三遊亭兼好師匠に決定しました。「彩の国落語大賞は錚々たる方々が受賞されてきたので嬉しいです。兼好が受賞した頃から(彩の国さいたま寄席は)面白くなかったと言われたいように頑張りたい」と受賞の喜びを語った兼好師匠。円楽一門会のホープとしてますますの活躍が期待されます。10月に開催する『彩の国落語大賞受賞者の会』をどうぞお楽しみに!



3月に行われた表彰式にて

■平成25年度 彩の国落語大賞受賞者の会 ～三遊亭兼好
【日時】10月10日(金) 開演19:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
【出演】三遊亭兼好(二席)、三遊亭好楽(ゲスト) ほか
※詳細はP.21

メンバーズに入会すると便利で楽しい特典がいっぱい!! 年会費2,000円

- 特典その1 **メンバーズ料金** 財団指定の公演でメンバーズ料金
- 特典その2 **優先予約** 一般発売よりも先に人気公演のチケット販売
- 特典その3 **チケット購入はキャッシュレス** チケット代、年会費は便利な口座引落し
- 特典その4 **財団情報誌をお届け** 公演情報満載の「埼玉アーツシアター通信」をお送りします
- 特典その5 **チケット送料無料** チケットは「安心のセキュリティバック(補償付き)」でお届け
- 特典その6 **プレオーダー** 人気の公演では優先予約に先駆けてプレオーダーを実施 ※プレオーダーは抽選

ご入会希望の方は、メンバーズ事務局 TEL: 048-858-5507 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く 10:00～19:00)

ACCESS MAP アクセスマップ



サポーター会員

(公財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるように、蜷川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(公財) 埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

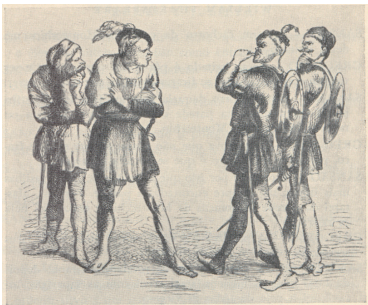
(株) 与野フードセンター / (株) 亀屋 / 武州ガス(株) / (株) 松本商会 / (有) 香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / テレビ埼玉ミュージック / 埼玉りそな銀行
(株) パシフィックアートセンター / (株) アサヒコミュニケーションズ / FM NACK5 / 東京ガス(株) / カヤバ システム マシナリー(株) / (株) タムロン / (株) 十万石ふくさや
森舞台機構(株) / 東芝エルティーエンジニアリング(株) / 埼玉トヨタ自動車(株) / (有) 齋賀設計工務 / 武蔵野銀行 / 浦和ロイヤルパインズホテル / アルピーノ村
国際照明(株) / 埼玉スバル / 桶本興業(株) / (株) 佐伯紙工所 / (株) 太陽商工 / (株) しまむら / (有) 六辻ゴルフセンター / 不動開発(株) / ビストロ やま / 埼玉県信用金庫
(株) 栗原運輸 / 彩の国SPグループ / (有) ブラネッツ / 関東自動車(株) / (株) デサン / セントラル自動車技研(株) / 丸美屋食品工業(株) / ボラスグループ / ひがし歯科
埼玉トヨペット(株) / 公認会計士 宮原敏夫事務所 / (株) 価値総合研究所 / (株) 埼玉交通 / 医療法人 顕正会 蓮田病院 / (株) ウイズネット
サイデン化学(株) / アイル・コーポレーション(株) / 五光印刷(株) / 旭ビル管理(株) / ヤマハサウンドシステム(株) / (株) エヌテックサービス / (株) クリーン工房
(株) つばめタクシー / (株) サンワックス / (株) 総合舞台 / (株) タクトコーポレーション / 広総業(株) / (財) さいたま住宅検査センター / (株) 国大セミナー
(株) NEWSエンターテインメント / (株) オーガス / イープラス / 六三四堂印刷(株) / 医療法人 榎会 林整形外科 / 埼玉県整形外科医会 / 医療法人社団 山粋会 山崎整形外科
サンケイリビング新聞社 / (株) 三和広告社 / (株) セノン / 東京新聞ショッパー / (株) 松尾楽器商会 / (有) 中央舞台サービス / JA埼玉県中央会 / 日本大学芸術学部
(株) 川口自動車交通 / (株) ホンダカーズ埼玉 / ファミリーマートあすまや / (株) セブンドリーム・ドットコム / (有) 杉田電機 / 丸茂電機(株) / 太平ビルサービス(株) / さいたま支店
(株) 片岡食品 / (株) 協栄 / (株) ヨコハマタイヤジャパン / NTT東日本 埼玉支店 / チャコット(株) / (株) 平和自動車 / 光陽オリエントジャパン(株) / 埼玉建設(株) / さくらMusic Office
神田大塚法律事務所 / クワバラ・バンブキン / 駒橋内科医院 / 東和産業(株) / テレビ埼玉

【お問い合わせ先】(公財) 埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

H26.4.25 現在 / 一部未掲載

彩の国 LOUNGE vol.11

「対立」が生むドラマ



「ロミオとジュリエット」
より一触即発のモンタ
ギュー家とキャピュレ
ット家の若者たち

今さら説明するまでもないが、『ロミオとジュリエット』の最大の悲劇はロミオのモンタギュー家とジュリエットのキャピュレット家、互いの「家」同士が犬猿の仲だったことだ。皮肉にも若いふたりの命と引き換えに両家はようやく和解する。いいじゃないの本人たちが愛し合っているならば、などと分別あるようなことを言いつつも、現代だっていざ結婚となれば相手の家柄を気にし出す親はごまんといる。恋愛や結婚に限らず、個人に付随する事情のために何かを諦めたり、意に沿わない決断

に至るケースは多々あるだろう。『ロミオとジュリエット』が永遠の命を保ち続けているのは、真っ直ぐすぎる純愛の眩しさと同時に、世間の理不尽さがわかりやすく描かれているからだ。その普遍性ゆえ、現代アメリカの人種問題に置き換えた『ウエスト・サイド物語』のように、いくらでもアレンジが可能なのである。

対立が生む悲劇は日本にももちろんあって、〈歌舞伎版『ロミオとジュリエット』とも言われるのが『妹背山婦女庭訓』の「吉野川」(もとは人形浄瑠璃)。川を挟んで敵対する両家の息子と娘は両想いの仲だが、親への義理立てと相手への思いやりから、共に若い命を散らす。悲劇ではないものの、『双蝶々曲輪日記』に登場するふたりの力士、濡髪長五郎と放駒長吉も、それぞれが世話になっている旦那同士のトラブルに巻き込まれる。当人同士は何の遺恨もないが、女をめぐる対立する自分の旦那の顔を立て、ひと勝負することに。つまりは代理戦だ。人気・実力ともに当代一の濡髪が、素人あがりの放駒になぜコロリと負けたのか? 背景に横たわるのが「義理と人情の板挟み」というあたりが実に日本的だが、古今東西、当人にはどうにもできない「対立」が生むドラマは、かくも人を惹きつける。

「双蝶々曲輪日記」の
濡髪長五郎(中村吉右衛門)
© 松竹



SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2014.5-6

平成26年5月15日発行51号(隔月15日発行) 第51号(5月-6月)
発行人: 竹内文則 発行: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500